

講義名		研究演習			
講義コード	45423	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 木曜日 5時限
担当教員	山川 拓也	サンパリング・コード		SEM350	
学部・学科			演習分野		
人間社会学部 / 商学部			観光商品・旅行業・地域創生マーケティング		
概要説明					
「観光商品・旅行業ビジネス・地域創生×マーケティング」をテーマに、さまざまなプロジェクト型のアクティブラーニングを複数同時進行で展開し、理論学習だけではなく「実践を通しての学び」を深めます。具体的には、外部団体主催の「海外旅行商品企画コンテスト」への取り組みや、観光や地域創生に関わる企業等との共創コラボレーションの実施などになります。なかでも基幹のプロジェクトについては、2年後期から3年後期のチームでPDCAサイクルを回しながら、反復的・継続的に取り組んでいきます。それにより、プロジェクト成果の質の向上を図ると同時に、取り組みを通して、常に過去の自分を越えることを目指します。 演習で取り組む商品企画の大きなテーマは、ストーリー・マーケティングの考え方による「観光におけるイミ消費」をどのようにして促進させるか？です。世界的には既にコロナ禍前より、集客至上主義・大量消費型の観光形態からの変化・脱却を試みる動きがあり、観光の評価を「量的価値による評価を超えた質的価値」で問うようになっています。実際に日本でも、「とりあえず行き、なんとなく見る／体験する」といった《表面的なコト消費》を軸とする観光よりも、「共感・貢献・物語」がキーワードとなる「《イミ消費》としての観光」に魅力を感じて積極的に道好する旅行者・観光者が増加しつつあります。この潮流を踏まえると、本演習において《イミ消費》による「観光の質」について追究していくことには極めて大きな意義があると考えています。 本演習では「経験主義」を強く推進したいと考えています。そのため、通常のゼミの時間外（例えば週末や長期休暇中）に学外活動を実施することも多くなります（当該プロジェクトに関わる学生は原則全員参加）。その際の費用（交通費や参加費、行先によっては宿泊費）については、可能な限りの負担軽減のための努力をしますが、基本的に学生個人の相応の負担が発生することになります。					
< 参考 > 【山川ゼミの受賞実績（団体・個人）】					
2019年に第一期の演習を開講して以降、たゆまぬ努力の結果として、数多くの目に見える成果をあげています。これらは学生の自信につながっており、本演習での学修を通し、それぞれが自己選択と自己決定による「将来の自分の進路」を確実に切り拓いてくれています。					
< 2020年 > ・第11回 開空発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画コンテスト 準グランプリ < 2021年 > ・第12回 開空発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画コンテスト 準グランプリ ・人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ 近畿地区大会 最優秀賞 < 2022年 > ・第13回 開空発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画コンテスト 優秀賞 ・兵庫県加東市との域学連携による地域活性化策提案コンペ 最優秀賞＆商工会長賞 < 2023年 > ・第14回 開空発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画コンテスト 準グランプリ＆優秀賞 < 2024年 > ・人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ 全国決勝大会 社会人基礎力大賞 ・第15回 開空発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画コンテスト 準グランプリ＆優秀賞 ・日米観光交流年2024 アメリカ旅行企画コンテスト 審査員特別賞 < 2025年 > ・「ひめじ観光ビジネスコンテスト」 最優秀賞					
主な卒業論文のタイトル					
卒業論文の執筆を希望しない者については、教員との合意に基づくプロジェクトへの高いレベルでの取り組みを卒業制作と位置付け、卒業論文の代替とすることも可能です（ただし、質量ともに卒業論文の代替と認められるレベルの報告レポートの作成を求めます）。尚、大学における4年間の学修の集大成として、卒業論文の執筆を希望する者については、その意思を歓迎して積極的に指導します（卒業論文のテーマは、演習分野と大きく乖離していない必要があります）。					
教員よりの要望					
演習運営に際しては、【楽しく真面目に研究する、真面目に楽しく研究する】を基本の価値観としています。この「楽しい」は、演習そのものやプロジェクトへの取り組み、あるいは知識等の吸収に対し、真面目・実直になることにより創り出されるものです。これを土台としたうえで、より専門的な学びを深めることと合わせて、将来において絶対に必要とされる「社会人基礎力」（考え抜く力・他者と働く力・前に踏み出す力）も育てていきたいと考えています。この考え・想い・方針について、教員と学生間での「共有されるべき価値」として意識・理解されることを強く望みます。					
選考方法					
転ゼミ希望者の選考方法は、申込書提出前の事前面談ならびに申込書と成績通知表の内容からみた総合判断とします。事前面談では、素直さ／前向き度／向上心／責任感／感謝観念／思いやり／一生懸命／明朗快活／ビジネスマナーの観点と尺度から、演習の活動に支障がないかを確認します。（尚、上記の選考プロセスの結果、転ゼミを受け入れない場合もあります。）					
【選考にあたって】 ・本演習の学修内容は、担当教員が担当する他授業（講義科目）の内容と密接に関係しています。担当教員の授業については、学部学科を問わず、基本的に全ての科目を履修していただきます。					

評価方法	
演習運営方針の理解・実行、取り組み姿勢（積極度、協力度、貢献度、参加態度）、スケジュール・マネジメント（出席、遅刻、早退、期限等）、研究課題の内容（各種ワーク、成果物、発表・プレゼン等）をもとにして、学期末に総合的な評価を判定します。	
教員英字氏名	研究室
Takuya YAMAKAWA	研究棟 5418
最終学歴	
大阪府立大学大学院経済学研究科 経済学専攻 観光・地域創造分野 博士後期課程修了	
学位	
博士（経済学）（大阪府立大学）	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
【研究テーマ】「観光の現代的消費構造と市場形成」、「観光における意味的価値の消費」、「観光経験としての『生活文化体験』の商品化」、「ローカル体験としての旅行・観光」をベースとする観光商品開発や地域マーケティングの戦略、コミュニティ・ベースド・ツーリズム（CBT）等に関心を寄せています。	
【学位論文】 山川拓也（2018）「団体ヨーロッパツアー造成に関する研究―異文化間インテグレーターとしての添乗員機能の分析―」大阪府立大学, 博士（経済学）, 甲第1843 号	
【主な査読付き論文】 山川拓也（2015）「海外旅行における文化的価値を基盤とする旅行業の再定義化―旅行会社の商品マーケティング戦略における文化論的視点」『日本国際観光学会論文集』22, pp. 97-102 崔載弦・山川拓也（2016）「新しい観光のコンセプト：韓国における公正旅行と訪日観光」, 『日本国際観光学会論文集』23, pp. 91-99 山川拓也・中尾公一（2021）「地域住民と外国人宿泊客を結びつけるゲストハウス―媒介・仲介機能とCOVID-19の影響の分析―」『観光研究』32(2), pp. 81-93 山川拓也（2023）「イミ消費」を意図した観光ツアー商品の企画開発に関する分析と考察―広島市内におけるsoko i ko iの事業者インタビューと参加者事後レビューから見えるもの―『観光マネジメント・レビュー』(3), pp. 62-78	
趣味・特技	
上質な美味しい食事と酒を楽しむこと、サウナ、弓道、海外旅行	
所属	
人間社会学部 観光学科	
所属学会	
日本観光研究学会、日本国際観光学会、日本商業学会、日本マーケティング学会、地域デザイン学会	
専門分野	
観光経済学、観光マクロマーケティング、観光消費文化論、コミュニティツーリズム	
担当科目	
観光文化論、観光地理学、観光施設計画論、旅行事業経営論、観光社会学、教養特講（旅行計画の基礎）、専門基礎演習（人）、研究演習（人）、卒業研究	
備考	
【卒業生の主な進路（就職先・内定先）】 観光・ホスピタリティ業界では、旅行業だけに限らず、ホテル／空港（貨物）／船舶（フェリー）／テーマパークの各企業への内定・就職者（日本人・留学生）がいます。その他、金融（地方銀行）／医療／福祉／販売（自動車・サービス）／流通（スーパーマーケット）／不動産／専門メーカー（食品・医薬・理化学）等、多岐にわたる業界の内定・就職者（日本人・留学生）がいます。また、数は少ないですが、大学院進学者（和歌山大学大学院観光学研究科）もいます。	
実務経験の有無及び活用	
「実務経験あり」 旅行業ならびに旅行サービス手配業の実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画造成、営業、添乗、海外駐在、市場戦略などのマーケティング）を活かし、旅行・観光の商品化に関する思考を深化させ、実践的な指導をおこなう。	